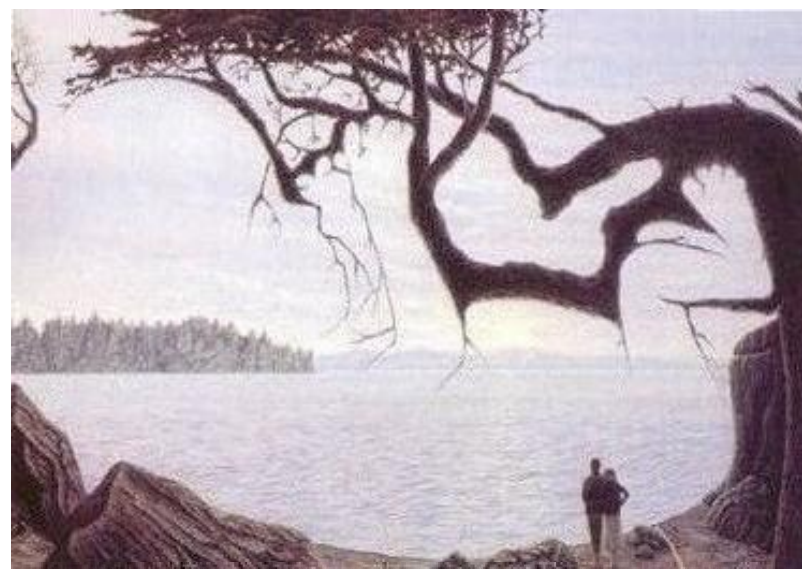


# 新しい発見

境川中学校 一年四組 辻 真樹

自分では、これだと思っていたものが、他人から違うものだと思われ、なるほどそうもいえるかと教えられた経験は多いことだろう。

左の図を見てみよう。この図は、浜辺の木の下で、二人の男女が肩を組んでいる絵だが、少々目を遠ざけてみよう。すると、木の枝と背景とで赤ちゃんの姿が映し出されている。



このことは、日常生活でもよく見られる。人は、見るものを一点にしぼると、周りのことはぼんやりとしか見えなくなるのだ。一つのことに縛られずに、もつと絵全体を見ることができ

れば、いろいろと新しいことも解<sup>わか</sup>ってくるだろう。物によっては、角度を変えるだけで印象が変わるものもある。



例えば上の絵。この絵は、帽子をかぶった二人の男女が笑いあっている絵である。このような普通の絵でも、一八〇度回転させて、絵をひっくり返すと、怒っている二人の絵になってしまう。

このようなことは、蝶や美しいものを見ているときに、よくある。

例えば、蝶を観察しているときに羽の表面がすごく美しいのに対して、裏面は地味な色ということがある。

これで終わり、と決めつけずに、まだ何かあるのではないかと、これからはもつといろいろな角度や距離、そして中心に見るものを変えることができる。新しいことを発見することができる。そして、驚きや、すっきりした気分にならせてくれるだろう。